



平成 19 年 11 月 25 日 (日) 瀬戸の住民登山パーティ 4 名 (伊藤武男、岡本君男、清水紀宏、伊藤孝) は、午前 8 時 白山神社を軽トラで出発した。林道タテナリ口に駐車、タテナリ砂防の沢の登山を始め 9 時にはタテナリ砂防 4 号堰堤に到着した。かなり急峻な沢のみちだが、何度も登山みち整備に通ったので想像以上に足が速い。これから先が未踏の沢だ。近年の大雨で荒れているので浮き石に注意、枝払いしながら登る。途中小さな滝と出会う。ここまで登っても水量が豊富だ。さらに登るとやがて流れが途切れて岩の合間からチヨロチヨロと湧き出る源流に辿り着いた。

(写真 1) 源流に不相应な谷の形だ。明治の豪雨で相当量の土石を流した形跡である。これより谷をよし登るとまもなくブナの群生林になる。直径は 5、60cm が多い。(写真 2) 木地師、薪炭などで伐採した事で大木は見あたらない。美しいブナの林だ。ようやく頂上日の窪峠に出た。11 時 30 分。これより少し西側が林道高倉谷峠になる。4 号堰堤から 2 時間半も費やした。ここからの展望も絶景だ。ブナ林を越えて杉谷集落、遠く日野山を一望する。東に穏やかな藤倉林道も見える。高倉谷川水源のみちを踏破した感激を弁当とりながら味わう。

1 時半峠から木地師のみちを下る。わずかに人のみちが確認される。途中から 4 号堰堤に降りることにした。枝を払いビニールひもをくくりつけてコースを決めていく。(写真 3) 4 号堰堤に 2 時半に着いた。かなり険しい斜面なのでコースには不向きだ。ここからは登って来た沢を戻る。神社に 3 時半到着し解散した。

(記録 : 伊藤武男、写真撮影 : 伊藤孝)

水環境と歴史的砂防施設を活用した地域づくり

水源のみち踏破記録

高倉谷タテナリ砂防の沢登山 高倉峠 木地師の道・塩の道

歴史的価値の高い峠道

木地師街道

瀬戸と岐阜県旧徳山村との峠で、美濃の木地師が開いたといわれている。

塩の道

日本海の塩を徳山村に運んだ道でもあった。

歴史的価値の高い石積砂防堰堤群

タテナリ砂防の沢

明治 28 年 9 月の大豪雨により 6m に及ぶ土石を堆積させた。明治 33 年から砂防工事が始められた。タテナリの渓谷には良質の石材が豊富で、野面積みの逞しく美しい堰堤群が点在する。

保全したい水環境

タテナリ、東高倉、西高倉の 3 渓谷水源のみち
ブナ原生林、西高倉大滝

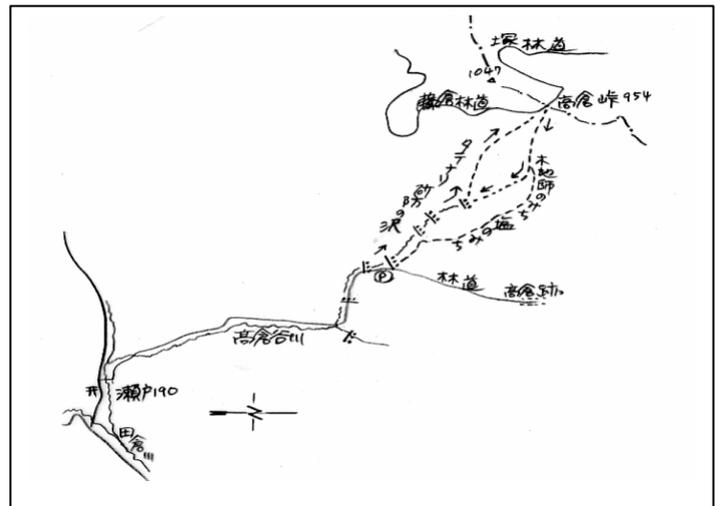


写真 3 写真 1 写真 2



川の駅 高倉谷砂防石積堰堤の会 福井県南越前町瀬戸住民活動 / 代表伊藤武男 (Tel .0778-45-2133)

日野川流域交流会 事務局 / 福井県越前市塚町 武生商工会議所内 上木善憲 (Tel .0778-23-2020)

(制作 / 環境文化研究所 Y.Tanaka / 2007.12.14)